



宮城県  
宮城野高等学校  
1~3学年

「未来構想ゼミナール」

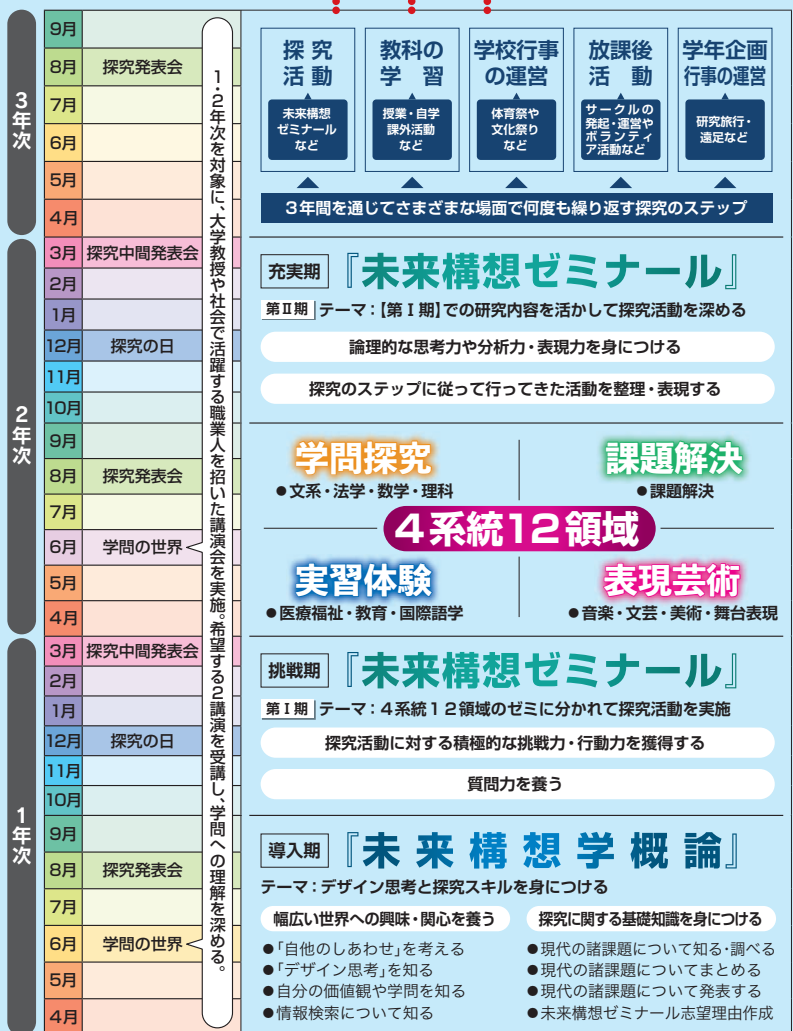
宮城県宮城野高等学校は、「自己教育力」「未来デザイン力」「共生と奉仕」を目指すべき資質・能力として掲げ、多様な教育活動を展開しています。その中でも、「未来デザイン力」を育む上で大きな役割を果たしているのが、探究活動の『未来構想ゼミナール』です。ゼミナール形式を大胆に採用した、一人ひとりの生徒の個性に磨きをかける探究活動に大きな注目が集まっています。

目指すのは、「デザイン思考」と「探究スキル」の涵養  
「自他のしあわせ」を実現する「未来構想ゼミナール」

**学校基本情報**  
所在地 〒983-0021 宮城県仙台市宮城野区田子2-36-1  
URL <https://miyagino.myswan.ed.jp/>  
交通 JR仙石線「福田町駅」下車、徒歩10分  
学校長 早坂 重行  
生徒数 普通科：男子227名、女子328名  
美術科：男子13名、女子100名  
総合学科：男子34名、女子39名

自他を「しあわせ」にする企画力を育成・発揮するプログラム

「未来デザイン力」を身につける



探究関連の行事	主な活動内容
普通科	美術科

宮城県宮城野高校では、令和4年の学科改編を機に新たな探究活動「未来構想ゼミナール」を開始しました。その特長は、学科改編以前の「総合学科」で実施していた「プロジェクトスタディ」という探究活動で培ってきた経験や、宮城県内でも珍しい美術科を設置している同校ならではのノウハウを組み込んでいること。ゼミナール形式の採用により、生徒の多様な個別の選択肢に対応しています。早坂重行校長先生や研究企画部の西澤先生をはじめ、探究活動に深く携わる6人の先生方に内容や生徒に期待することなどについてうかがいました。



校長 早坂 重行 先生  
研究企画部部长 西澤 硬 先生

生徒の多様な選択肢に呼応する探究活動

自他を「しあわせ」にする探究活動  
デザイン思考を学ぶ未来構想学概論

普通科・美術科・総合学科の3学科体制で開校した本校は、令和4年4月に学科改編を行い、現在は総合学科を統合した「普通科」と「美術科」の2学科体制で教育活動を行っています。これを機に新たに着手したのが「未来構想ゼミナール」という探究活動です。この活動は、自分の得意なコトや個性を活かして社会に貢献するための「未来デザイン力」を育成することが目的です。「みんなが幸せになるために何ができるのか」を多様な視点から考えていきます。

その導入として、「デザイン思考」と「探究スキル」の修得を目指すのが1年次前期の『未来構想学概論』です。デザイン思考とは、デザインの発想を課題解決に活かす思考法のことをいいます。デザインと聞くと、「見た目」を作ることや美術的な観点を思い浮かべる人も多いと思いますが、本校では「誰かをしあわせにするためのモノやコト」と定義づけ、デザイン思考を作品づくりだけではなく、「企画づくり」やさまざまな物事に対してアプローチしていくためのスキルと捉えています。これまで美術科において取り組んできたデザイン思考の育成ノウハウを全校的に展開し、旧・総合学科での探究活動を融合していくことで、STEAM教育を重視した教科横断的な探究活動が実現できるよう設計しています。

個別最適化を実現するゼミナール  
2年間を通じて探究活動を深める

1年次の後期からは、グループまたは個人で設定したテーマに関する探究活動を実施する『未来構想ゼミナール』が始まります。大きな特長は、ゼミナール形式を採用し、全職員が学年や担当科目に関係なく関わることで、本校は従来、各学科それぞれの特長を活かした探究活動を推進してきましたが、生徒一人ひと

りで異なる社会や学問に対する興味・関心、また探究活動へのモチベーションに対して、横並びの指導に陥りがちなことへのジレンマを抱えていました。その解決のために多様な手法を検討する中で、自分に合うテーマを自分に合う形で探究できる仕組みとして未来構想ゼミナールに行き着きました。生徒は探究手法の異なる「4系統12領域」のいずれかのゼミナールに所属し、教員は一人当たり10人程度の生徒を担当します。これにより、探究活動の個別最適化が実現可能となります。

主な流れとしては、1年次の10月から2年次の9月までを【I期】、10月から3年次の9月までを【II期】として、2サイクルの探究活動を行います。I期においてさまざまな挑戦をし、そこで得た反省点や新たな興味・関心を土台として、より探究活動を深めていくという2年間を通じた取り組みとなっています。

何度も繰り返す探究の4ステップ  
教員の伴走で生徒の主体性を育む

探究活動をはじめ、高校生活のさまざまな場面で、生徒は①「課題設定」②「情報の収集」③「整理・分析」④「まとめ・表現」という探究の4ステップを繰り返していきます。その中で、意識して多く設けているのが④「まとめ・表現」のステップの「発表」の場です。生徒は、発表を経験することで「初めて聞く人にも分かりやすく伝えること」の重要性を理解するようになります。相手に伝えるように論理的に意見を述べたり、論文を書いたり、あるいはプレゼンテーションを行ったりできる力は大学入試の「総合型選抜」等で求められる志望理由書や小論文、面接にも活かすことができるでしょう。探究活動にしっかり向き合うことが、次の進路を目指すためのヒントになることを期待しています。課題も内包しています。生徒にア



川崎 浩介 先生、伊勢 将聡 先生  
アンケートを実施したところ、「失敗する人に対して、応援する雰囲気がある」「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる」といった項目に肯定的な回答が多かったのに対して、課題設定・解決に苦手意識を抱えている生徒が少なくないことが明らかになりました。そうした生徒の探究活動をいかにファシリテートし、主体性を育むのが今後の課題の一つです。ルールを敷くような「指導」をするのではなく、彼ら・彼女らとは異なる視点を示唆して気づきを与えるような「伴走」を心がけることが重要なのだと思います。

探究活動の「質」の向上が今後の課題  
すべての学びに探究の要素を取り入れる

私たち教員には試行錯誤を重ねながら探究活動と向き合い、生徒と共に成長することが求められています。そして、探究活動を通じて確立した仕組みや仕掛けは、日常の授業にも活かしていく必要があります。暗記ばかりではなく、ディスカッションや発表などの探究の要素を取り入れ、学校教育全体で思考力を育成していくというのが理想です。本校の探究活動はようやく一つの体系としてまとまりつつありますが、今後はその「質」を向上させ、教員の負担を減らしていくことも必要です。限られた時間の中で質を高め、選択肢をより多く用意できる探究活動にしていくには、まだまだ改善の余地がありそうです。本校はこの探究活動を起爆剤に、教育活動全体を活性化させ、生徒の多様な選択肢に対応できる高校を目指していきます。



### 探究 「探究の日」

宮城野高校では、ゼミナールごとに丸一日をかけて探究活動を行う「探究の日」を設定しています。令和5年度は一日または宿泊して二日間という日程でした。

「表現芸術」の美術ゼミでは、日帰りで山形美術館や山形県旧県庁舎に赴き、ナマの絵画や彫刻、建築物に接して美術に対する理解を深める場を用意しました。各ゼミで多彩な活動を実施しており、教員の企画力も高まる行事となっています。

部活動という形式を設けていないため、放課後や休日の時間を拘束されず探究活動に十分な時間を充てることができる宮城野高校ならではの行事と言えるでしょう。

探究活動の過程は、「ロイロノートスクール」という授業支援クラウドを使用し、ゼミ生内で共有をしています。生徒の考えを可視化し、その後の活動内容に活かせるように配慮します。



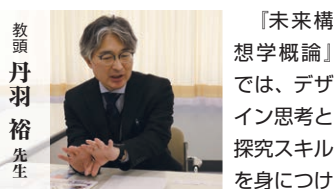
### 探究発表会

1年次生徒の全員が見学する中、2・3年次の生徒が1年間のゼミナール活動の成果を披露する発表会を行います。作品展示やプレゼンテーション、ポスターセッション、舞台発表など、形式はさまざまです。

活動を進める中でお世話になった大学教授や外部講師、周辺高校の生徒らも招待するなど、外部視点の客観的な意見を取り入れるよう心がけています。

\*1 授業支援クラウド  
教育現場向けに特化したオンラインストレージやオンラインサービスを用いて、児童・生徒の学びと

### 未来構想学概論 デザイン思考と探究スキル



「未来構想学概論」では、デザイン思考と探究スキルを身につけていきます。デザイン思考とは、ユーザーやクライアントのニーズを基盤に、「共感」「定義」「概念化」「試作」「検証」のステップを踏みながらアイデアを創出していく方法のことです。一方、探究スキルとは、情報検索や意見文執筆、プレゼンテーションなど、「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究の4サイクルを回していくための実践的技術のことです。

新学期を迎えた4月には、本校がキーワードとして掲げる「自由」「しあわせ」をテーマに、ブレインストー

ミングやKJ法を活用したオリエンテーションを行うほか、「理想の小学校について考える」といった身近なテーマを題材にグループワークを実施し、デザイン思考についての理解を深めていきます。

その後、6月からは「現代の諸課題」をテーマにグループワークを進めていきます。現代の諸課題というと難しく聞こえるかもしれませんが、「身近なこと」で気になること、「解決すればしあわせになること」など、どのようなものでも構わないとしています。「マンダラート」や「5 W 1 H・YES/NO」で本質に迫る」といったワークシートやシンキン



### 未来構想学ゼミナール 4系統12領域の活動内容

学問探究 文系 法学 理科 数学 「興味のあることをとことん追究したい人」

に向けて、「文系」「法学」「理科」「数学」の4領域を設置しています。例えば法学では、弁護士会等が主催する模擬裁判大会に参加し、理科では宮城教育大学の教授や大学院生の協力を得ながら「天体望遠鏡を自作する」「効率的に摩擦をさせるには」など、生徒主体で多様なテーマの実験やディスカッションを行います。論理的・科学的思考力を身につけることを目標とする活動内容です。

課題解決 「社会の課題を解決したい」「学校の外に飛び出して活動したい」という思いを持つ生徒を対象に、SDGsの理念やアートの視点など、さまざま

な角度から課題の解決を目指す活動をしています。過去の活動では、「精神障害者の雇用」「フードロス」「海洋生物に及ぼす生活ゴミ」「信号のない横断歩道での車の一時停止」「人とペットの共存」「朝食と学力」といったテーマでグループ研究に取り組みました。フィールドワークを積極的に取り入れています。

実習体験 医療福祉 教育 国際語学 「医療・福祉」「教育」「国際・語学」の3領域を展開し、海外研修や地域での学習ボランティア、保育実習などに取り組みます。医療・福祉では介護ロボット体験をはじめ、医療機関や大学へのフィールドワークを行っており、教育では学習支援ボランティア等を実施しています。国際・語学は、海外の生徒などとの交流の場を豊富に設け

\*2 KJ法  
カードや付箋に情報やアイデアを書き出し、それらを並び替えたりグループ化したりすることで効率

的に問題の解決や課題の発見をする手法。考えや意見が可視化されるため、論理的に情報を整理することができる(▶本誌19ページ)。

グツールを用いながら探究のサイクルを回し、最終的には1グループ3分程度の発表を行います。

高校生活の初期にデザイン思考と探究スキルを学ぶことで、生徒たちはその後の探究活動はもちろん、体育祭や文化祭、ボランティア活動、地域の中学生を対象にした探究型ワークショップを開催する「探究道場」など、学校生活の多様な場所で、それらを活用していくことになります。

特に探究道場では、京都市立堀川高等学校をはじめとする他県の生徒と交流を持ちながら、「探究」することの魅力を中学生に伝えるための企画作りや事前準備、当日の運営をイチから行う必要があるため、これらのスキルが大いに役立っているようです。



### 「なぜ人は好きなものに依存するの？」 1年次

私たち4人の探究テーマは、「なぜ人は好きなものに依存するのか」というものです。話し合いを重ねる中でメンバーそれぞれに「好きなこと」があることに気がつきました。そうだとすれば、その共通点をテーマにすれば楽しいのではないかと考えました。

特に印象に残っている取り組みは、夏休みに「依存するものを一日禁止する」という実験です(笑)。

メンバー全員が、自分の好きなゲームや「推し」にふれない日を設け、それを体験したことで、「過剰な依存は良くないけれど、好きなものを生かしていく」ということを改めて実感することができました。活動終盤には、クラスのみ



んなと全校生徒の前で発表を行いました。スライドは文字量を減らして見やすくしたり、発表を聴いている人とアイコンタクトを取ったりするよう心がけたことが良かったのか、「分かりやすかった」と言ってくれる人がたくさんいました。正直なところ、全校生徒の前での発表は、これまでの人生で最も緊張しました。発表に対する苦手意識はまだありますが、人前で発表をすることで、自分にとってプラスになることがあるのだということが分かりました。

### 「食品ロスを減らすレシピを考える！」 2年次

私たちは、食品ロスについて探究活動を行っています。各家庭で余ってしまう野菜や子どもの苦手な食材が食品ロスの原因になりやすいため、「全世代が好き嫌なく食べることができる」「食品ロスを減らすことができる」レシピを考案しました。スーパーマーケットに足を運んで廃棄商品を調べたり、料理雑誌を読んだり、なるべくゴミを出さないことを目標に調理も行いました。失敗もしましたが、皮ごとニンジンを使用したカレーやキャベツと生クリームのアイスクリームなどをつくることができ、「実際にやってみるのが一番」ということを学ぶ経験になりました。



現在は2つの班に分かれて続けています。内海・東海林チームは、食品ロスを減らす方法として幼児教育に注目し、幼稚園で意識を高める紙芝居を行う予定です。岩崎・本田チームでは、栄養素の偏りをテーマに健康かつ簡単に栄養素を摂取する方法を考えています。食事の記録や栄養素を調べるなど、数値を用いることで説得力のある研究を目指しています。

滑なコミュニケーションが求められる外部講師からコミュニケーション

に関する講義を受けたり、舞台の作り方について学んだりもします。

ている点が特長です。令和4年度からは、アートマイル国際協働学習プロジェクトを活用し、海外の留学生とインターネット上での交流を介して壁画の制作に取り組んでいます。令和5年度の壁画は優秀作品として評価され、「外務大臣賞」の受賞が決定しました。

表現芸術 音楽 文芸 美術 舞台表現 「音楽」「文芸」「美術」「舞台表現」の4領域を設置し、作品制作や発表会の企画・開催などを行っています。舞台表現では、俳優・音響・制作・照明・舞台美術に分かれ、一つの舞台を作り上げていきます。より良い舞台を完成させるためには、キャスト・スタッフの別に関係なく円



\*3 マンダラート  
自分の考えを整理したり、アイデアを出したりするのに効果的なフレームワーク。曼荼羅模様のマス

目の中央に達成したい目標を記載し、その周囲に目標達成のための具体的な取り組みや施策、アイデアなどを書き込んでいく。

\*4 アートマイル国際協働学習プロジェクト  
一般財団法人ジャパンアートマイル(本部兵庫・赤穂市)提供の学習プロジェクト。インターネットを使って海

## なるほど！ 探究活動インタビュー

未来構想学概論でグループワークに取り組んだ1年次・4人組(未来構想ゼミナール)で課題解決ゼミに所属し、探究活動に励む2年次・4人組(それをの探究活動のテーマや印象に残っている取り組み、今後の目標についてお話をうかがいました)。